

弦打校区 第5号

防災だより



発行日：令和7年3月21日
発行者：弦打校区自主防災会連絡会
高松市鶴市町356番地3
TEL 087-882-0285
共催：弦打校区コミュニティ協議会（防災部会）
弦打地区社会福祉協議会

本年1月に政府の地震調査委員会が「南海トラフ地震」でマグニチュード8～9クラスの地震が30年以内に発生する確率を「80%程度」に引き上げ、弦打校区においても震度6弱から6強の揺れが予想されています。

弦打校区自主防災会連絡会や弦打校区コミュニティ協議会防災部会が中心となり、令和6年3月に冊子『弦打防災（地震・水害）2024年改訂版』を発行して校区内に配布するとともに、希望する自治会やコミュニティ協議会・各種団体にて個別説明会を実施しました。

また、自治会未加入世帯や子育て世帯の皆様にも周知・啓発を図るため、弦打小学校と連携した防災学習、防災キャンプ、防災カフェなどにも取り組みました。

さらに、ハード面では香東川東岸の市道御殿成合線改良工事が完了した際には、香東川改良計画（郷東床止工(堰)周辺で川幅が狭くなっている個所の拡幅工事）を早期に実施していただけるよう行政機関に要望を行いました。

弦打校区の防災活動および弦打小学校の防災学習に対し、令和5年度から香川大学・大学院の皆様より多大なるご支援・ご協力をいただいております。今回も記事を寄稿していただいております。

令和7年度につきましては、地域防災力の更なる向上に向け、引き続き自治会や学校等での防災研修会を実施するほか、校区内の事業所との防災に関する連携や、地区防災計画・避難所運営マニュアルの見直しを計画しています。また、避難行動要支援者の安否確認・避難支援や、デジタルを活用した防災情報の収集体制の構築などにも取り組んで参りますので、弦打校区の皆様のご協力・参加をお願いします。



【『弦打防災』2024年改訂版の自治会説明会】

これまで14自治会にて実施（約400名参加）した『弦打防災』自治会説明会では、南海トラフ地震や香東川・本津川が氾濫した場合に各自治会がどのような危険な状況になるかを確認し、弦打校区における過去の災害事例を示しながら災害への備えについて説明しました。

また、一部の自治会説明会にて参加者を対象にアンケートを実施しました。

まず『弦打防災』の活用状況は、図1のようになりました。

「知っているが詳しく見たことがない」（35.7%）、「災害の危険度を確認したことがある」（37.1%）など約7割が『弦打防災』のことを知っている人や内容を確認したことがある一方、「『弦打防災』を使って災害への備えに取り組んだことがある」は21.4%であり、災害への備えの実施に十分につながっていないのが現状です。



説明会の様子（郷東自治会）

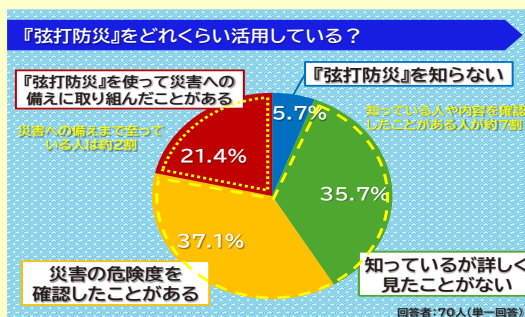


図1 『弦打防災』の活用状況

しかし、図2のように『弦打防災』の活用状況と「災害時にしっかりと行動ができる自信」の関係を見てみると、『弦打防災』を確認し、災害への備えに取り組むなど活用が進むほど「自信がない」は減少傾向になっています。

今年度は、災害リスクの確認が主なテーマとなりましたが、今後、わが家の防災カルテ（弦打防災18頁、60頁）やマイ・タイムライン（弦打防災61頁）の作成など具体的な勉強会も検討していきます。今後も説明会・勉強会の際には、ぜひ参加いただければ幸いです。

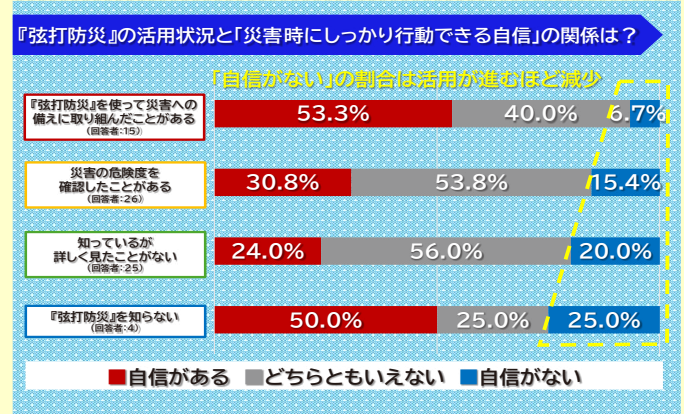


図2 活用状況と災害時における行動の自信との関係

最後に『弦打防災』には、ハザードマップや地域の避難所など「弦打校区に特化した防災のお役立ち情報」が掲載されています。まずは災害時に自宅周辺がどのような状況になるのか確認していただき、もしもの時の家庭内の連絡方法や避難先など家族で話し合ってみてください。

各家庭で

確認する ⇨ 家族で話し合う ⇨ 実際に備えてみる ⇨ 近所と連携する

と、防災のステップを一段ずつ上がって行けば、地域としても「災害に強い弦打」に近づくと考えます。ぜひ「災害に備える第一歩」を踏み出してください。

香川大学大学院竹之内研究室 日野田圭祐（防災士）

【令和6年度 弦打校区自主防災訓練】

令和6年度弦打校区自主防災訓練を11月17日（日）に実施しました（参加人数62名）。

午前8時に南海トラフ地震が発生し、高松市内は震度6強の揺れに見舞われ多数の被害が発生しているという想定で、弦打校区の住民は自身や家族並びに近隣住民の安全を確認して各自治会で定めた一次避難場所に避難し、安否確認の後、指定避難所である弦打小学校に移動して訓練に参加しました。

訓練では、避難所の安全確認訓練（避難所建物使用の安全性点検）、情報伝達訓練（トランシーバーを使用して本部と自治会等との通話確認）、避難者の受入訓練（避難者の受付・誘導手順確認）、避難所備蓄品の設置訓練（ワンタッチパーテーションやエアベットの設置）などを実施しました。

また、今年度の防災訓練では小学校児童の防災に関する夏休みの自由研究や作品を体育館に展示して訓練参加者に広く見てもらい、優秀作品の表彰式も開催しました。

今回も防災研修会として家具モデルを使った転倒防止対策について説明し、家具の配置見直しを含めた家具の固定がいかに重要であることを訓練参加者へ喚起しました。

令和7年度の自主防災訓練では実施内容や規模の拡充を図ると共に、備蓄品の整備や運営マニュアルの改訂など災害への備えについても改善していきます。



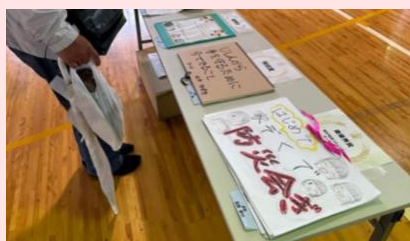
【小学生の夏休み防災作品募集と表彰式】

今年度、弦打校区自主防災会連絡会とコミュニティ協議会防災部会が新しく「親子で取り組む！防災作品募集」を企画しました。

弦打小学校の協力のもと、夏休みの宿題として「防災」をテーマに、作文・ポスター・自由研究の募集を行い、合計で約30点の応募がありました。

毎年、子どもたちは小学校の授業で地域の防災士と共に防災学習を行っています。そこで学んだ内容を家族と共有することを目的としています。今回の作品募集に関しても、夏休みに親子でテーマを決め、得た情報を家族で共有し、災害発生時に自分の命を自分で守ることができるよう、様々な角度から家族で一緒に学ぶことを目的としました。

集まった作品は地域の防災士やコミュニティ協議会役員で審査し、校区自主防災訓練時に応募作品を展示すると共に、優秀な作品を表彰しました。受賞した子どもたちは「また来年も応募したい」「弦打が好き」と笑顔を見せていました。



【キッズクラブ防災キャンプ】

つるうちキッズクラブが主催する「キッズ防災キャンプ」は、平成28年から始まり今年で8回目です。防災の学びと遊びを目的とし、今年度は「避難所で自分たちができる事は何だろう？」をテーマとし、11月2日（土）～3日（日）に開催しました。

参加した子どもたちは、災害時に避難所となる弦打小学校体育館で、実際に使用するパーテーションやエアーマットを組み立て、避難所を設営しました。その後、今年のゲストである香川大学の皆さんが考えた防災学習ゲーム「防災脱出～災害から命を守れ～」を行いました。このゲームは水害発生時に避難所へ向かうために様々な状況の中でどうやったらいいのかを考えながら学ぶゲームで、子どもたちはゲームを通じて共助の大切さを学ぶ良い機会となりました。

地域の子どもたちにとって、普段は学びの場である小学校体育館が避難所になった際の生活を知り、その中で自分たちも地域の為にできることを実地に学べる良い行事になりました。



【防災学習授業の支援活動】

9月13日、弦打小学校にて1年生から5年生までの各防災学習授業を防災士2名一組で分担しました。

各防災士は昨年までの防災学習の内容を振り返り、各学年の先生と一緒に内容を検討し、1年生から6年生まで積み上げながら学習できるように整理しました。

当日は授業参観日となっており、ご家族が見守る中での授業となりました。

1年生～4年生は「自分の命は自分で守る!」。自助についての学びで、1年生は地震の際の家の中の危険、2年生は地震の際の通学路の危険（実際の通学路の画像を使って学習）、3年生は水害について（過去から学ぶ）、4年生は水害発生時の危険について（『弦打防災』を見ながら自宅の危険性を学ぶ）という内容でした。

5年生は学びを「共助」にまで広げマイ・タイムライン作成に向けての学習（地域の特性から防災を考える）を行いました。地域を知り、防災行動や防災知識を2月に開催する「防災フェスティバル」にて発信する準備を行うということで、ハザードマップの見方や避難情報の確認方法、警戒レベルと避難行動をマイ・タイムラインに結び付ける考え方などを学びました。

6年生は10月2日午後、体育館にて自分たちにできる自助・共助について学びを深めました。まずは、昨年度に開催した防災フェスティバルでの学習知識を元に自分の命を守るための準備と行動。準備では実際の家具固定モデルを使用して家具の固定方法も学びました。また、地震発生後に避難所へ避難したことを想定し「避難所でなにができるか?」をグループワークで話し合いました。子どもたちの発想はとても柔軟で豊か。避難所運営の手伝いで自分たちにできそうなことや、小さい子の面倒を見たり高齢者の手助けをするなど次々と発表され、共助への理解を示してくれました。

防災学習を通じて子どもたちの防災力が大人を動かし、地域の強い防災力になっていく予感が実感できる素晴らしい『防災学習授業』となりました。



今回の防災学習では、さまざまな防災の知識を児童たちが学びました。そして、もう一つ大切なこととして、地域の方々が児童たちのことを考え、様々なことに取り組んでいることを知りました。

私たちは、非常に難しい時代を生きています。災害を防止し、時には予測する方法を得ることができました。そして、耐震化や治水対策などにより、昔に比べると災害の発生数も減少しました。しかし、それでも災害は起こります。また、少子高齢化や個人主義の時代の流れの中で、地域によっては隣近所など地域内での交流が減る傾向も見られます。これから私たちはどのような防災を目指していくべきでしょうか。

防災は『地域社会の“かすがい”』です。すべての住民に関係する災害について、防災を通じ、改めて地域のいろいろなつながりを作り出していくことが大切です。児童たちは地域の方々から何を学び、地域の方々は児童たちから何を学びましたか？

お互いを知り、つながりを深める『弦打校区の“防災学習”』は、学校と地域、児童と住民のつながりを必ずや作り出してくれるでしょう。

香川大学創造工学部 准教授 竹之内健介